

気象警報・注意報（R06）のXMLフォーマット解説

気象警報・注意報（R06）XMLの構造は気象庁防災情報XMLフォーマットに従います。本解説の内容は今後の運用の変更に伴って変わる可能性があります。

本資料中で用いる用語について

- ・「前回電文」とは、参照中の電文（当該電文）と、情報名称（Control/Title）、運用種別（Control/Status）及び発信官署（Control/EditorialOffice）が同一である電文の中で、発表時刻（Head/ReportDateTime）が当該電文の直近過去である電文を指す。
- ・本資料中で参照しているコードに関する表番号は、気象庁防災情報XMLフォーマット辞書・コード管理表中の番号である。
- ・「府県予報区等」は、次の場合を除き、府県予報区を指す。
 - ・北海道（宗谷地方、及び網走・北見・紋別地方を除く）については、一次細分区域を用いる。
 - ・鹿児島県については、「鹿児島県（奄美地方除く）」又は「奄美地方」を用いる。
- ・「一次細分区域等」は、原則として一次細分区域を指す。
- ・「市町村等をまとめた地域等」は、原則として市町村等をまとめた地域を指す。ただし、市町村等をまとめた地域の設定がない場合には、一次細分区域を指す。
- ・「気象警報・注意報」は、気象特別警報、気象危険警報、気象警報及び気象注意報をまとめて示す。

（2024/10/31 注）【P】となっている部分については、法令や関係機関との協議により今後決定することから、現時点では仮決めとするもの。

気象警報・注意報（Ｒ０６）の全体構成

気象警報・注意報（Ｒ０６）は、以下の電文により構成される。

対象	電文の概要	データ種類コード (TTAAii)	Control/Title
○	大雨に関する警戒レベル情報	VPWW55	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（大雨）”
○	土砂災害に関する警戒レベル情報	VPWW56	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（土砂）”
○	高潮に関する警戒レベル情報	VPWW57	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（高潮）”
○	暴風・暴風雪に関する警報・注意報	VPWW58	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（暴風）”
○	波浪に関する警報・注意報	VPWW59	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（波浪）”
○	大雪に関する警報・注意報	VPWW60	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（大雪）”
○	その他の注意報	VPWW61	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（その他注意報）”
	警戒・注意事項と各気象要素の予想 を時系列とした情報	VPWP50	“気象警報・注意報時系列情報（Ｒ０６）”
○	警戒・注意事項を全要素集約した全 国分の通報情報	VPWS50	“気象警報・注意報（Ｒ０６）（集約通報）”

上記のほか、氾濫に関する警戒レベル情報については、指定河川洪水予報（VXK0ii）及び水位周知河川に関する情報（VXSUii）による。本資料では、上記○印の対象電文について解説を行う。

対象となる府県予報区等について、各気象警報・注意報の気象要素別にそれぞれ対象となる電文の発表を都度行う。ただし、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷及び着雪の各注意報については、その他注意報としてとりまとめて発表を行う。本資料において、これら電文（データ種類コード：VPWW55～61）を「気象警報・注意報電文」という。

また、気象警報・注意報電文の各気象要素の最新の発表状況を一定時間毎に集約して通報する。本資料において、この電文（データ種類コード：VPWS50）を「集約通報電文」という。

上記のほか、気象警報・注意報に関する危険度や量的見積もりに関する要素を時系列とした予測情報について、時系列情報として発表する。時系列情報は、発表中又は今後発表されうる気象警報・注意報に関する予測の情報であり、本情報をもって気象警報・注意報の発表状況を示すものではないことに留意する。これらの各電文が対象とする内容については、別表１のとおり。

各府県予報区等において、現在発表されている気象警報・注意報を全て把握するためには、次のいずれかの方法に依る。

- ・各気象警報・注意報電文の最新のもの、指定河川洪水予報の各予報区間単位で最新のもの、水位周知河川に関する情報の各発表区間単位で最新のもの
- ・集約通報電文（対象とする府県予報区等の内容）の最新のもの、指定河川洪水予報の各予報区間単位で最新のもの、水位周知河川に関する情報の各発表区間単位で最新のもの

気象警報・注意報（R06）の解説

1. Control 部

```
<Control>
  <Title>気象警報・注意報（R06）（土砂）</Title>
  <DateTime>2020-06-22T14:00:00Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>富山地方気象台</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>富山地方気象台</PublishingOffice>
</Control>
```

1 - 1 Title

電文の種別を示すための情報名称。

〔解説〕 “気象警報・注意報（R06）（土砂）”等を記載する。具体的な値は別表2のとおり。

1 - 2 DateTime

発信時刻。

〔解説〕 年月日時分秒をUTC表記のdateTime型で記載する。

1 - 3 Status

運用種別。

〔解説〕 “通常”、“訓練”、“試験”のいずれかを記載。

1 - 4 EditorialOffice

編集官署名。

〔解説〕 1 実際に発表作業を行った官署名を示す。

2 全国を対象とした集約通報電文においては、“気象庁本庁”とする。

1 - 5 PublishingOffice

発表官署名。

〔解説〕 1 業務的に発表した官署名を示す。共同業務等で連名となる場合は、list型（空白区切り）で列挙する。

2 全国を対象とした集約通報電文においては、代表して“気象庁”とする。

2. Head 部

```
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>富山県土砂災害警報・注意報</Title>
  <ReportDateTime>2020-06-22T23:00:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2020-06-22T23:00:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID />
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial />
  <InfoKind>気象警報・注意報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.5_0</InfoKindVersion>
  (略)
```

2 - 1 Title

情報の標題

- 〔解説〕 1 電文が対象とする地域の名称、気象要素の名称に続いて、“警報・注意報”を記載する。
2 全国を対象とした集約通報電文においては、“警戒・注意事項集約定時通報”とする。

2 - 2 ReportDateTime

発表時刻

- 〔解説〕 発表時刻を JST 表記の dateTime 型で表記する。時刻は分単位で、秒は常に“00”。

2 - 3 TargetDateTime

基点時刻

- 〔解説〕 発表時刻に同じ。

2 - 4 EventID

識別情報

- 〔解説〕 常に空要素（空タグ）となる。

2 - 5 InfoType

情報形態

- 〔解説〕 “発表”、“訂正”のいずれかを記載。

2 - 6 Serial

情報番号

- 〔解説〕 常に空要素（空タグ）となる。

2 - 7 InfoKind 及び InfoKindVersion

スキーマの運用種別情報（InfoKind）、及びスキーマの運用種別情報のバージョン番号（InfoKindVersion）

- 〔解説〕 1 InfoKind は、“気象警報・注意報”で固定。
2 InfoKindVersion には、バージョン番号を文字列で記載する。

2 - 8 Headline 部

〔当該府県予報区に気象特別警報が発表されているときの例〕

```
<Headline>
  <Text>【特別警報（大雨）】東部南、西部北に特別警報を発表しています。低い土地の浸水、河川の増水に最大級の警戒をしてください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
```

〔当該府県予報区に気象特別警報が解除された時点の例〕

```
<Headline>
  <Text>【警報に切り替え】富山県では、15日昼前まで低い土地の浸水、河川の増水に警戒してください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
```

〔当該府県予報区に気象特別警報が発表されていないかつ解除された時点でもないときの例〕

```
<Headline>
  <Text>富山県では、15日昼前まで低い土地の浸水、河川の増水に警戒してください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
```

(略)

2 - 8 - 1 Text

見出し文

〔解説〕 1 注意警戒文を記載する。当該府県予報区内に特別警報を発表中の市町村等があるときは、文頭に“【特別警報（〇〇、〇〇…）】”の書式で、〇〇に発表中の特別警報名を列記する。当該府県予報区から特別警報を発表する市町村等がなくなったときは、文頭に“【危険警報に切り替え】”、“【警報に切り替え】”、“【注意報に切り替え】”、“【特別警報解除】”のいずれかを記載する。

2 全国を対象とした集約通報電文においては、空要素（空タグ）とする。

2 - 8 - 2 Information 部

〔解説〕 1 属性 type により分類され、繰り返し出現する。属性 type が同一のものが複数回出現することはない。

2 属性 type のとりうる値は以下の通り。

“気象警報・注意報（府県予報区等）”
“気象警報・注意報（一次細分区域等）”
“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”
“気象警報・注意報（市町村等）”
“気象警報・注意報（高潮予報区間）” ※高潮警報・注意報のみ

2 - 8 - 2 - 1 Information[@type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”]部

〔解説〕 対象となる要素について、府県予報区等の単位で、区域内の市町村等に発表中の気象警報・注意報をまとめた内容を記載する。

```
〔区域内の市町村等に発表中の気象警報・注意報がある場合〕
<Information type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>レベル2大雨注意報</Name>
      <Code>10</Code>
    </Kind>
    <Areas codeType=“気象情報／府県予報区・細分区域等”>
      <Area>
        <Name>富山県</Name>
        <Code>160000</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
</Information>

〔区域内の市町村等に発表中であった警報・注意報が、すべて解除された場合〕
<Information type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>解除</Name>
      <Code>00</Code>
    </Kind>
    <Areas codeType=“気象情報／府県予報区・細分区域等”>
      <Area>
        <Name>富山県</Name>
        <Code>160000</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
</Information>
```

2 - 8 - 2 - 1 - 1 Item 部

気象警報・注意報の種別（Kind 部）及び府県予報区等（Areas 部）を記載する。

〔解説〕 対象要素について、気象警報・注意報が発表中である市町村等を含む府県予報区等、又は区域内の市町村等に発表中であった気象警報・注意報がすべて解除された府県予報区等の数だけ出現する。

2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 Kind 部

府県予報区等内の市町村等で発表中の気象警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition) を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は府県予報区等内に含まれる市町村等で発表中である気象警報・注意報の種類数だけ出現する（その他注意報及び集約通報電文以外は原則 1 つ）。

2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。

3 大雨特別警報、大雨危険警報、大雨警報、大雨注意報のように、同一の現象に対する特別警報や危険警報、警報、注意報が府県予報区等内の異なる市町村等で同時に発表されている場合、それらに特別警報が含まれるときは特別警報のみ、特別警報が含まれず危険警報が含まれるときは危険警報のみ、特別警報と危険警報が含まれず警報が含まれるときは警報のみ記載する。同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは以下の通り。

暴風雪特別警報 と 暴風雪警報 と 風雪注意報

大雪特別警報 と 大雪警報 と 大雪注意報

大雨特別警報 と 大雨危険警報 と 大雨警報 と 大雨注意報

土砂災害特別警報 と 土砂災害危険警報 と 土砂災害警報 と 土砂災害注意報

高潮特別警報 と 高潮危険警報 と 高潮警報 と 高潮注意報

波浪特別警報 と 波浪警報 と 波浪注意報

暴風特別警報 と 暴風警報 と 強風注意報

4 当該府県予報区等内の市町村等に発表中であつた気象警報・注意報がすべて解除された場合は、Kind 部は 1 回出現し、気象警報・注意報の種別名 (Name) に“解除”、コード (Code) に“00”が記載される。

5 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”**[P]**。

2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 2 Areas 部

Kind 部で内容を述べた府県予報区等の名称 (Area/Name)、コード (Area/Code) を記載する。

〔解説〕 1 Item 以下に Areas 部は 1 回だけ出現する。Areas 以下に Area 部は 1 回だけ出現する。

2 Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”固定。

3 府県予報区等の名称と対応するコードは code.AreaForecastLocalM (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

2 - 8 - 2 - 2 Information[@type=“気象警報・注意報（一次細分区域等）”]部

〔解説〕 一次細分区域等の単位で、区域内の市町村等に発表中の気象警報・注意報をまとめた内容を記載する。

2 - 8 - 2 - 2 - 1 Item 部

2 - 8 - 2 - 1 - 1 の内容の“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替えたものと同じ。

2 - 8 - 2 - 3 Information[@type=“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”]部

〔解説〕 市町村等をまとめた地域等の単位で、区域内の市町村等に発表中の気象警報・注意報をまとめた内容を記載する。

2 - 8 - 2 - 3 - 1 Item 部

2 - 8 - 2 - 1 - 1 の内容の“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替えたものと同じ。

2 - 8 - 2 - 4 Information[@type=“気象警報・注意報（市町村等）”]部

〔解説〕 市町村等に発表中の気象警報・注意報を記載する。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 Item 部

気象警報・注意報種別 (Kind 部) 及び対象の市町村等 (Areas 部) を記載する。

〔解説〕 1 Item 部は発表中の気象警報・注意報がある市町村等、又は発表中であつた気象警報・注意報がすべて解除された市町村等の数だけ出現する。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 - 1 Kind 部

発表中の気象警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition) を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は当該市町村等で発表中の気象警報・注意報の数だけ出現する。

2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。

- 3 ただし、当該市町村等の気象警報・注意報をすべて解除する場合は、気象警報・注意報の種別名 (Name) に“解除”、コード (Code) に“00”を記載する。
- 4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”【P】。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 - 2 Areas 部

Kind 部で内容を述べた市町村等の名称 (Area/Name)、コード (Area/Code) を示す。

- [解説]
- 1 Item 以下に Areas 部は 1 回だけ出現する。Areas 以下に Area 部は 1 回だけ出現する。
 - 2 Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”固定。
 - 3 市町村等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

3. Body 部

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/"
      xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <Notice>この電文はテストサンプルです。</Notice>
  <Warning type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
  </Warning>
  <AdditionalInfo>
    (略)
  </AdditionalInfo>
</Body>
```

3 - 1 Notice

お知らせ

【解説】 お知らせを記載する場合、Body 以下に 1 回～複数回出現する。お知らせを記載しない場合は、要素ごと省略する。

3 - 2 Warning 部

【解説】 1 属性 type により分類され、繰り返し出現する。属性 type が同一のものが複数回出現することはない。

2 属性 type のとりうる値は以下の通り。

```
“気象警報・注意報（府県予報区等）”
“気象警報・注意報（一次細分区域等）”
“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”
“気象警報・注意報（市町村等）”
“気象警報・注意報（高潮予報区間）” ※高潮警報・注意報のみ
```

3 - 2 - 1 Warning[@type="気象警報・注意報（府県予報区等）"] 部

府県予報区等の単位で電文が対象とする地域内の市町村等の気象警報・注意報の内容を記載する。

```
<Warning type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
  <Item>
    <Kind>
      <Name>レベル 2 大雨注意報</Name>
      <Code>10</Code>
      <Status>継続</Status>
      <LastKind>
        <Name>レベル 2 大雨注意報</Name>
        <Code>10</Code>
      </LastKind>
      <NextKinds>
        <NextKind>
          <Name>レベル 3 大雨警報</Name>
          <Code>03</Code>
          <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
          <Sentence>1 6 日未明までにレベル 3 大雨警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
        </NextKind>
      </NextKinds>
    </Kind>
    <Area>
      <Name>富山県</Name>
      <Code>160000</Code>
    </Area>
    <ChangeStatus>警報・注意報種別に変化有</ChangeStatus>
    <FullStatus>一部</FullStatus>
    <EditingMark>1</EditingMark>
  </Item>
</Warning>
```

3 - 2 - 1 - 1 Item 部

対象要素について、府県予報区等 (Area 部) 内の市町村等の気象警報・注意報をまとめて、気象警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

【解説】 Item 部は電文が対象とする地域内の府県予報区等の数だけ出現する。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 Kind 部

対象要素について、気象警報・注意報の内容（気象警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、発表形態 (Status)、状況 (Condition)、前回の発表状況 (LastKind 部)、特別警報・危険警報・警報への切り替え予告 (NextKinds 部)、付加事項 (Addition 部)) を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は府県予報区等内に含まれる市町村等で発表中の気象警報・注意報、又は前回電文で府県予報区等内に発表中である市町村等があり、当該電文で発表中である市町村等がなくなった気象警報・注意報の数だけ出現する（その他注意報及び集約通報電文以外は原則 1 つ）。府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中及び解除の気象警報・注意報がない場合には、Kind 部は 1 回だけ出現する。

2 集約通報電文においては、さらに日時 (DateTime) を追加し、当該 Kind 部の内容の更新日時（対象要素の警報・注意報の発表日時）を記載する。属性 Type は“発表時刻”の固定とする。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 1 Name、Code、Status、Condition

〔区域内に発表中の市町村等がある種別の場合〕

```
<Kind>
  <Name>レベル 3 大雨警報</Name>
  <Code>03</Code>
  <Status>継続</Status>
  (略)
</Kind>
```

〔前回電文で区域内の市町村等に発表中であった種別について、当該電文で発表中の市町村等がなくなった場合〕

```
<Kind>
  <Name>雷注意報</Name>
  <Code>17</Code>
  <Status>解除</Status>
</Kind>
```

〔区域内の市町村等に発表中、または解除の気象警報・注意報がない場合〕

```
<Kind>
  <Status>発表警報・注意報はなし</Status>
</Kind>
```

〔高潮予報区間において特に警戒すべき事項として氾濫発生を付記してレベル 5 高潮特別警報発表する場合〕

```
<Kind>
  <Name>レベル 5 高潮特別警報</Name>
  <Code>38</Code>
  <Status>発表</Status>
  <Condition>氾濫発生</Condition>
  (略)
</Kind>
```

〔解説〕 1 府県予報区等内の市町村等で発表中、または発表中であったものがすべて解除される気象警報・注意報名 (Name) とコード (Code) を記載する。気象警報・注意報種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。ただし、“00” (解除) のコードは使用しない。府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中及び解除の気象警報・注意報がない場合には、Name、Code、Condition は省略する。

2 区域内に当該気象警報・注意報を解除する市町村等があっても、当該気象警報・注意報を発表中の市町村等がある場合には、解除の内容は記載しない。また、大雨特別警報、大雨危険警報、大雨警報、大雨注意報のように、同一の現象に対する特別警報や危険警報、警報、注意報が府県予報区等内の異なる市町村等で同時に発表されている場合、それらに特別警報が含まれるときは特別警報のみ、特別警報が含まれず危険警報が含まれるときは危険警報のみ、特別警報及び危険警報が含まれず警報が含まれるときは警報のみ記載する。同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 〔解説〕 3 に同じ。

3 発表形態 (Status) は気象警報・注意報の種別 (Name) に対し次の通り設定する。

発表：当該気象警報・注意報が、前回電文で府県予報区等のいずれの市町村等においても発表中ではなく、当該電文で府県予報区等のいずれかの市町村等で発表中となる場合。

継続：当該気象警報・注意報が、前回電文、当該電文ともに、府県予報区内等内の市町村等のいずれかで発表中である場合。

特別警報から危険警報：前回電文で、当該危険警報と同一現象の特別警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の危険警報が発表中である場合。

特別警報から警報：前回電文で、当該警報と同一現象の特別警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の警報が発表中である場合。

特別警報から注意報：前回電文で、当該注意報と同一現象の特別警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の注意報が発表中である場合。

危険警報から警報：前回電文で、当該警報と同一現象の危険警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の警報が発表中である場合。

危険警報から注意報：前回電文で、当該注意報と同一現象の危険警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の注意報が発表中である場合。

警報から注意報：前回電文で、当該注意報と同一現象の警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の注意報が発表中である場合。

解除：前回電文で、当該特別警報、危険警報、当該警報又は当該注意報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等においても、それと同一現象の気象警報・注意報がいずれも発表中でない場合。

発表警報・注意報はなし：府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中、または解除される当該気象警報・注意報がない場合。

- 4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”【P】。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 2 LastKind 部

対象要素について、府県予報区等内の市町村等に発表中、又は解除される気象警報・注意報について、前回電文で同一の現象の気象警報・注意報が発表中であった場合に、前回電文の内容（気象警報・注意報の種別名(Name)、コード(Code)、状況(Condition)）を記載する。前回電文で発表されていない場合は記載しない。同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1【解説】3に同じ。

```
<Name>レベル3大雨警報</Name>
<Code>03</Code>
<Status>発表</Status>
<LastKind>
  <Name>レベル2大雨注意報</Name>
  <Code>10</Code>
</LastKind>
```

【解説】1 LastKind 部はKind 以下に0回または1回出現する。

2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表3参照。

3 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、LastKind 部に記載する場合がある。

4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”【P】。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 3 NextKinds 部

対象要素について、府県予報区等内の市町村等に発表中の警報・注意報について、注意報については同一の現象の警報、危険警報又は特別警報へ、警報については同一の現象の危険警報又は特別警報へ、危険警報については同一の現象の特別警報へ切り替えて発表する可能性のあるとき、切り替える可能性のある特別警報・危険警報・警報の内容（特別警報・危険警報・警報の種別名(NextKind/Name)、コード(NextKind/Code)）、切り替えて発表する可能性のある予報期間を示すための時間情報(NextKind/DateTime)、発表の可能性の内容(NextKind/Sentence)を記載する。同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1【解説】3に同じ。

```
[NextKind 部がNextKinds の下に1回のみ出現する場合（強風注意報から暴風警報に切り替える可能性が高い場合）]
<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
```

```

<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>16日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

[NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（強風注意報から暴風警報へ切り替えた後、暴風特別警報へ切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>23日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風特別警報</Name>
    <Code>35</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>23日朝までに暴風特別警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

[NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（府県予報区等内の市町村等で強風注意報が発表されており、これら市町村等の一部で暴風警報に、他の一部で暴風雪警報に切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>02</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>23日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風雪警報</Name>
    <Code>03</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T03:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>23日朝までに暴風雪警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

- [解説] 1 NextKinds 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。NextKind 部は NextKinds が出現するとき NextKinds 以下に 1 回以上出現する。
- 2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。
- 3 DateTime は NextKind 以下に 1 回出現し、ある時間帯までに特別警報・危険警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その時間帯の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。DateTime の属性 significant は DateTime で記載される基点時刻の有効桁、属性 precision は基点時刻からの時間の幅（予報期間）を記載する。
- 4 Sentence は NextKind 以下に 1 回出現し、特別警報・危険警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その内容を文章で記載する。
- 5 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、NextKind 部に記載する場合がある。また、複数の NextKind 部を出現させ、暴風警報、強風注意報については、暴風特別警報・警報とともに暴風雪特別警報・警報の発表の可能性を、暴風雪警報、風雪注意報については、暴風雪特別警報・警報とともに暴風特別警報・警報の発表の可能性を記載する場合がある。
- 6 土砂災害特別警報及び土砂災害危険警報、並びに高潮特別警報、高潮危険警報及び高潮警報に切り替えて発表する可能性は記載しない（3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 3 CriteriaPeriod 部の解

説も参照)。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 Addition 部

当該気象警報・注意報種別に関する付加事項の内容を記載する。

```
<Addition>
  <Note>突風</Note>
  <Note>ひょう</Note>
</Addition>
```

- [解説] 1 府県予報区等内の市町村等において、当該気象警報・注意報種別に付加事項が付される場合に出現する。
- 2 当該府県予報区等内の市町村等における、当該気象警報・注意報の種別の付加事項を Note に記載する。複数ある場合は、Note を必要回数繰り返す。

3 - 2 - 1 - 1 - 2 Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる府県予報区等の名称 (Name)、コード (Code) を記載する。

```
<Area>
  <Name>富山県</Name>
  <Code>160000</Code>
</Area>
```

- [解説] 1 Code に用いるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”
- 2 府県予報区等の名称と対応するコードは code.AreaForecastLocalM (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

3 - 2 - 1 - 1 - 3 ChangeStatus

当該府県予報区等に関する内容の変化の有無を記載する。

- [解説] 1 当該府県予報区等の発表形態 (Kind/Status) が“発表警報・注意報はなし”である場合は、ChangeStatus は省略する。
- 2 ChangeStatus のとりうる値は次の通り。
- 警報・注意報種別に変化有：当該府県予報区等の Kind 部のうち、発表形態 (Status) が“発表”、“特別警報から危険警報”、“特別警報から警報”、“特別警報から注意報”、“危険警報から警報”、“危険警報から注意報”、“警報から注意報”、“解除”であるものが 1 以上含まれる場合。または、前回電文と比較して、当該府県予報区等の高潮特別警報の特に警戒すべき事項 (Condition) に変化があった場合。
- 警報・注意報種別に変化無、量的予想事項等に変化有：当該府県予報区等のすべての Kind 部の発表形態 (Status) が“継続”であって、かつ、高潮特別警報の特に警戒すべき事項 (Condition) が前回電文と比較して変化がない場合において、前回電文と比較して付加事項 (Addition)、特別警報または警報への切り替え予告 (NextKind) に変化がある Kind 部が 1 以上ある場合。
- 変化無： 前回電文と比較して、当該府県予報区等の Kind 部の内容 (LastKind 部及び NextKinds 部を除く) に変化がない場合。

3 - 2 - 1 - 1 - 4 FullStatus

府県予報区等内の市町村等に発表中の気象警報・注意報、または区域内の市町村等で解除される気象警報・注意報が、区域内のすべての市町村等で同じか否かの識別子を記載する。

- [解説] 1 当該府県予報区等の Status が“発表警報・注意報はなし”である場合には、FullStatus は省略する。
- 2 FullStatus のとりうる値は次の通り。

全域：府県予報区等内に気象警報・注意報が発表中の市町村等がある場合には、府県予報区等内のすべての市町村等で発表中の気象警報・注意報が同一である場合。府県予報区等内の市町村等で発表中であった気象警報・注意報がすべて解除される場合には、府県予報区等内のすべての市町村等で解除される気象警報・注意報が同一である場合。

一部：上記以外の場合。

3 - 2 - 1 - 1 - 5 EditingMark

電文が対象とする地域内の市町村等に発表されている気象警報・注意報を、発表中の気象警報・注意報の組み合わせが同一な区域名 (府県予報区等、一次細分区域等、市町村等をまとめた地域等) でまとめて表現する場合に、当該区域を表現に使用するかどうかの識別符を記載する。

- [解説] 1 当該府県予報区等の Status が“発表警報・注意報はなし”である場合には EditingMark は省略する。

- 2 EditingMark のとりうる値は次の通り。
- 1 : 当該府県予報区等を上記表現に使用する場合
 - 0 : 当該府県予報区等を上記表現に使用しない場合
- 3 Warning[@type="気象警報・注意報（府県予報区等）"]、Warning[@type="気象警報・注意報（一次細分区域等）"]、Warning[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]以下の、EditingMark の値が1である Item 部の内容（発表中の気象警報・注意報がある場合は、解除される気象警報・注意報を除く Kind 部）を抽出することにより、同種の気象警報・注意報が発表されている地域を、より広い地域名でまとめた表現をすることができる。

3 - 2 - 2 Warning[@type="気象警報・注意報（一次細分区域等）"]部

一次細分区域等の単位で電文が対象とする地域内の市町村等の気象警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 2 - 1 Item 部

対象要素について、一次細分区域等 (Area 部) 内の市町村等の気象警報・注意報をまとめて、気象警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

〔解説〕 1 Item 部は一次細分区域等の数だけ出現する。出現順は一次細分区域等のコードの昇順とする。

3 - 2 - 2 - 1 - 1 Kind 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 2 Area 部

3 - 2 - 1 - 1 - 2 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 4 FullStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 5 EditingMark

3 - 2 - 1 - 1 - 5 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 Warning[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]部

市町村等をまとめた地域等の単位で、電文が対象とする地域内の市町村等の気象警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 3 - 1 Item 部

対象要素について、市町村等をまとめた地域等 (Area 部) 内の市町村等の気象警報・注意報をまとめて、気象警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の市町村等をまとめた地域等の数だけ出現する。

3 - 2 - 3 - 1 - 1 Kind 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 2 Area 部

3 - 2 - 1 - 1 - 2 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 4 FullStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 5 EditingMark

3 - 2 - 1 - 1 - 5 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 4 Warning[@type="気象警報・注意報（市町村等）"]部

市町村等の気象警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 Item 部

対象要素について、市町村等における気象警報・注意報についての気象警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変

更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の市町村等の数だけ出現する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 Kind 部

対象要素について、気象警報・注意報の内容 (気象警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、発表形態 (Status)、状況 (Condition)、前回の発表状況 (LastKind 部)、特別警報・危険警報・警報への切り替え予告 (NextKinds 部)、付加事項 (Addition 部)) と量的予想事項 (Property 部) を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は市町村等で発表中の気象警報・注意報、及び当該電文で解除された気象警報・注意報の数だけ出現する。当該市町村等で発表中及び解除の気象警報・注意報がない場合には、Kind 部は 1 回だけ出現する。

2 全国を対象とした集約通報電文においては、さらに日時 (DateTime) を追加し、当該 Kind 部の内容の更新日時 (対象要素の警報・注意報の発表日時) を記載する。属性 Type は“発表時刻”の固定とする。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 1 Name、Code、Status、Condition

〔発表中の種別の場合〕

```
<Kind>
  <Name>大雨警報</Name>
  <Code>03</Code>
  <Status>継続</Status>
  (略)
</Kind>
```

〔解除の種別の場合〕

```
<Kind>
  <Name>雷注意報</Name>
  <Code>17</Code>
  <Status>解除</Status>
</Kind>
```

〔発表中、または解除の気象警報・注意報がない場合〕

```
<Kind>
  <Status>発表警報・注意報はなし</Status>
</Kind>
```

〔高潮予報区間において特に警戒すべき事項として氾濫発生を付記してレベル 5 高潮特別警報発表する場合〕

```
<Kind>
  <Name>レベル 5 高潮特別警報</Name>
  <Code>38</Code>
  <Status>発表</Status>
  <Condition>氾濫発生</Condition>
  (略)
</Kind>
```

〔解説〕 1 市町村等で発表中、または解除の気象警報・注意報名 (Name) とコード (Code) を記載する。気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。ただし、“00” (解除) のコードは使用しない。前回電文、当該電文ともに当該市町村等において発表中の気象警報・注意報がない場合には、Name、Code、Condition は省略する。

2 発表形態 (Status) のとりうる値は“発表”、“継続”、“特別警報から危険警報”、“特別警報から警報”、“特別警報から注意報”、“危険警報から警報”、“危険警報から注意報”、“警報から注意報”、“解除”、“発表警報・注意報はなし”。“発表警報・注意報はなし”は、当該市町村等において、発表中及び解除される気象警報・注意報がない場合。各とりうる値の記載方法については、3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 1 〔解説〕 3 に同じ。

3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”【PJ】。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 2 LastKind 部

対象要素について、市町村等に発表中、または解除される気象警報・注意報について、前回電文で同一現象の気象警報・注意報が発表中であった場合に、前回電文の内容 (気象警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition)) を記載する。前回電文で発表されていない場合は記載しない。同一現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 〔解説〕 3 に同じ。

```

<Name>大雨警報</Name>
<Code>03</Code>
<Status>発表</Status>
<LastKind>
  <Name>大雨注意報</Name>
  <Code>10</Code>
</LastKind>

```

- [解説] 1 LastKind 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。
- 2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。
- 3 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、LastKind 部に記載する場合がある。
- 4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、高潮特別警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生”【P】。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 3 NextKinds 部

対象要素について、市町村等に発表中の警報・注意報について、注意報については同一の現象の警報、危険警報、又は特別警報へ、警報については同一の現象の危険警報又は特別警報へ、危険警報については同一の現象の特別警報へ切り替えて発表する可能性のあるとき、切り替える可能性のある特別警報・危険警報・警報の内容（特別警報・警報の種別名 (NextKind/Name)、コード (NextKind/Code)）、切り替えて発表する可能性のある予報期間を示すための時間情報 (NextKind/DateTime)、発表の可能性の内容 (NextKind/Sentence) を記載する。同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。

[NextKind 部が NextKinds の下に 1 回のみ出現する場合（強風注意報から暴風警報に切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>1 6 日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

[NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（強風注意報から暴風警報へ切り替えた後、暴風特別警報へ切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風特別警報</Name>
    <Code>35</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日朝までに暴風特別警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

- [解説] 1 NextKinds 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。NextKind 部は NextKinds が出現するとき NextKinds 以下に 1 回以上出現する。
- 2 気象警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 3 参照。
- 3 DateTime は NextKind 以下に 1 回出現し、ある時間帯までに特別警報・危険警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その時間帯の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。DateTime の属性 significant は DateTime で記載される基点時刻の有効桁、属性 precision は基点時刻からの時間の幅（予報期間）を記載する。

- 4 Sentence は NextKind 以下に 1 回出現し、特別警報・危険警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その内容を文章で記載する。
- 5 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する気象警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、NextKind 部に記載する場合がある。
- 6 土砂災害特別警報及び土砂災害危険警報、並びに高潮特別警報、高潮危険警報及び高潮警報に切り替えて発表する可能性は記載しない(3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 3 CriteriaPeriod 部の解説も参照)。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 4 Addition 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等内の市町村等”を“市町村等”に読み替える。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 Property 部

気象警報・注意報種別ごとに量的予想事項を記載する。気象要素の種類(Type)、気象警報・注意報が対象とする気象現象の危険度(SignificancePart 部)、予想値等(WindDirectionPart 部等)を記載する。

〔解説〕 Property 部は Kind 以下に 1 回以上出現し、出現する Property/Type の内容及び組み合わせは、気象警報・注意報の種別 (Body/Warning/Item/Kind/Name) に依存する。また、各 Property 部に記載する内容は、気象警報・注意報の種別 (../Name) に依存する。気象警報・注意報の種別に対応する Property 部の記載内容は別表 4 のとおり。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 1 Type

量的予想事項を記載する気象要素の種類を記載する。気象警報・注意報種別と記載する気象要素の種類の対応は別表 4 のとおり。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 2 SignificancePart 部

気象要素に対応した危険度について諸要素を記載する。

地域の数による記述パターンの違いの例

〔地域全体について記載する場合〕

```
<SignificancePart>
  <Base>
    <Significance type="風危険度">
      <Name>注意報級未満</Name>
      <Code>01</Code>
    </Significance>
  </Base>
</SignificancePart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<SignificancePart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <Significance type="風危険度">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significance>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <Significance type="風危険度">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significance>
    </Local>
  </Base>
</SignificancePart>
```

〔高潮予報区間におけるレベル 5 高潮特別警報の場合〕

```
<SignificancePart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>〇〇海岸</AreaName>
```



```

<Significance type="高潮危険度">
  <Name>警戒レベル 5 相当</Name>
  <Code>51</Code>
</Significance>
<Attention>
  <Note>氾濫発生</Note>
</Attention>
</Local>
(略)

```

- [解説] 1 Base 以下に、危険度 (Significance/Name) と当該危険度に対応するコード (Significance/Code) を記載する。また、当該危険度に対する現象のピークの発現時間情報 (PeakTime 部)、特記事項 (Attention 部)、付加事項 (Addition 部) を記載することがある。地域を分けて危険度を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName)、危険度 (Significance/Name)、及び当該危険度に対応するコード (Significance/Code) を記載する。また、当該危険度に対する現象のピークの発現時間情報 (PeakTime 部)、特記事項 (Attention 部)、付加事項 (Addition 部) を記載することがある。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。危険度とコードの対応は別表 5 のとおり。
- 2 ピークの発現時間情報 (PeakTime 部) には、現象のピークが発現する日付 (Date) や時間帯 (Term) の文字列表現を記載する。PeakTime 部が出現する気象警報・注意報の種類と、対応する日付及び時間帯の文字列表現の組み合わせは別表 6 のとおり。
- 3 特記事項は、当該特別警報・警報・注意報の特記事項を記載する場合に出現し、内容 (Note) にその内容を記載する。Kind 部が高潮特別警報の場合には、市町村等 (市町村等内で地域 (高潮予報区間) を分けて記載する場合にはそれぞれの地域) で述べられている高潮特別警報としての当該特記事項を記載する。とりうる値は“氾濫発生” **[P]**。
- 4 付加事項の解説は、「3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 Addition 部」の内容のうち、“府県予報区内の市町村等”を“市町村等 (市町村等内で地域を分けて記載する場合にはそれぞれの地域)”に読み替える。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 3 CriteriaPeriod 部

危険度の根拠となる基準到達に関する諸要素を記載する。気象警報・注意報 (R06) の運用においては、土砂災害の警報並びに高潮の警報及び注意報において、警戒レベル 4 相当に達する予測に際して発表されることから、この警戒レベル 4 相当に達する予測の諸要素について、また警戒レベル 5 相当に達する場合又は達した場合のその諸要素について記載する。

地域の数による記述パターンの違いの例

[地域全体について記載する場合]

```

<SignificancePart>
  <Base>
    <Significance type="土砂災害危険度">
      <Name>警戒レベル 3 相当</Name>
      <Code>31</Code>
    </Significance>
  </Base>
</SignificancePart>
<CriteriaPeriod>
  <Base>
    <Sentence>23日1時から5時まで、警戒レベル 4 相当</Sentence>
    <CriteriaClass>
      <Name>警戒レベル 4 相当</Name>
      <Code>41</Code>
    </CriteriaClass>
    <Time>2020-06-23T01:00:00+09:00</Time>
    <Duration>PT4H</Duration>
  </Base>
</CriteriaPeriod>

```

[地域を分けて記載する場合]

```

<SignificancePart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>〇〇海岸</AreaName>
      <Significance type="高潮危険度">
        <Name>警戒レベル 2</Name>
        <Code>21</Code>
      </Significance>
    </Local>
  </Base>
</SignificancePart>

```

```

</Local>
<Local>
  <AreaName>(高潮予報区間以外)</AreaName>
  <Significancy type="高潮危険度">
    <Name>警戒レベル2未満</Name>
    <Code>11</Code>
  </Significancy>
</Local>
</Base>
</SignificancyPart>
<CriteriaPeriod>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>〇〇海岸</AreaName>
      <Sentence>23日1時から5時まで、警戒レベル4相当</Sentence>
      <CriteriaClass>
        <Name>警戒レベル4相当</Name>
        <Code>41</Code>
      </CriteriaClass>
      <Time>2020-06-23T01:00:00+09:00</Time>
      <Duration>PT4H</Duration>
    </Local>
  </Base>
</CriteriaPeriod>

```

- 【解説】1 現在の危険度 (Significancy) に対して、その根拠として別の危険度到達基準がある気象要素の場合、危険度部 (SignificancyPart 部) に続けて、その基準となる危険度に関する諸要素を基準到達期間 (CriteriaPeriod 部) に記載する。具体的には、土砂危険度の警戒レベル3～4相当 (警戒レベル4相当基準) 及び警戒レベル5相当 (警戒レベル5相当基準)、高潮危険度の警戒レベル2～4相当 (警戒レベル4相当基準) 及び警戒レベル5相当 (警戒レベル5相当基準) の際に記載する。地域を分けて基準到達期間を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と基準到達クラス・レベル (CriteriaClass)、基準到達時刻 (Time)、期間の長さ (Duration) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある
- 2 基準となるレベルを基準到達クラス・レベルの名称 (CriteriaClass/Name) と同コード (CriteriaClass/Code) に記載し、同基準となるレベルに到達する予測時間を到達時刻 (Time) に、その継続時間を期間の長さ (Duration) に記載する。
- 3 基準となるレベル又はその状況、到達予測時刻と期間又は到達時刻に関する文字列表現を Sentence 要素に記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 4 WindDirectionPart 部

風向について諸要素を記載する。

【地域全体について記載する場合】

```

<WindDirectionPart>
  <Base>
    <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字" condition="風雪" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>
  </Base>
</WindDirectionPart>

```

【地域を分けて記載する場合】

```

<WindDirectionPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>
    </Local>
  </Base>
</WindDirectionPart>

```

- 【解説】1 風について、卓越風向 (Base/WindDirection) を記載する。地域を分けて風向を記載する場合には、

Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と風向 (WindDirection) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

- 2 風向 (WindDirection) については、8 方位の漢字表現を用いる。属性 type は“風向”、属性 unit は“8 方位漢字”の固定。属性 condition は風危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。また、雪を伴う場合は“風雪”を記載する。属性 description に風向の文字列表現を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 5 WindSpeedPart 部

風速について諸要素を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

```
<WindSpeedPart>
  <Base>
    <jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>
  </Base>
</WindSpeedPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<WindSpeedPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" description="2 0 メートル">20</jmx_eb:WindSpeed>
    </Local>
  </Base>
</WindSpeedPart>
```

〔解説〕 1 風について、最大風速 (Base/WindSpeed) を記載する。地域を分けて最大風速を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と最大風速 (WindSpeed) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

- 2 風速 (WindSpeed) には最大風速を記載する。属性 type は“最大風速”、属性 unit は“m/s”の固定。属性 condition は風危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。また、雪を伴う場合は“風雪”を記載する。属性 description に最大風速の文字列表現を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 6 VisibilityPart 部

視程について諸要素を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

```
<VisibilityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="2 0 0メートル以下">200</jmx_eb:Visibility>
  </Base>
</VisibilityPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<VisibilityPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="1 0 0メートル以下">100</jmx_eb:Visibility>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="5 0 0メートル以下">500</jmx_eb:Visibility>
    </Local>
  </Base>
</VisibilityPart>
```

〔解説〕 1 濃霧について、予報の対象期間中に視程 (Base/Visibility) がある値以下となることを記載する。地域を分けて視程を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と視程 (Visibility) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

- 2 視程 (Visibility) の属性 type は“視程”、属性 unit は“m”、属性 condition は“以下”の固定。属

性 description に視程の文字列表現を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 7 WaveHeightPart 部

波高（波の水位）について諸要素を記載する。

[海域全体について記載する場合]

```
<WaveHeightPart>
  <Base>
    <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" description="1. 5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
  </Base>
</WaveHeightPart>
```

[海域を分けて記載する場合]

```
<WaveHeightPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>内海</AreaName>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" description="1. 5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>外海</AreaName>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" description="2. 5メートル">2.5</jmx_eb:WaveHeight>
    </Local>
  </Base>
</WaveHeightPart>
```

[高潮のうちあげ高水位を記載する場合]

```
<Property>
  <Type>高潮基準超過</Type>
  <WaveHeightPart>
    <Base>
      <Local>
        <AreaName>〇〇海岸</AreaName>
        <jmx_eb:WaveHeight type="うちあげ高水位" unit="m" description="1. 5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
        <Time>2020-06-23T08:00:00+09:00</Time>
      </Local>
    </Base>
  </WaveHeightPart>
</Property>
```

- [解説] 1 波について、波高 (Base/WaveHeight) を記載する。指定した海岸の予報区間又は海域（以下本項で「海域等」という。）を分けて波高を記載する場合には、Base/Local 以下に、海岸の予報区間名又は海域名 (AreaName) と波高 (WaveHeight) を記載する。Local は記載する海域等の数だけ繰り返すが、一部の海域等を記載しない場合がある。
- 2 波浪の波高には最大波高を記載する。属性 type は“波高”、属性 unit は“m”の固定。属性 condition は波危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に最大波高の文字列表現を記載する。
- 3 うちあげ高の水位にはうちあげ高水位又は最高うちあげ高水位を記載する。属性 type は“うちあげ高水位”又は“最高うちあげ高水位”、属性 unit は“m”の固定。属性 condition は高潮危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に水位の文字列表現を記載する。
- 4 高潮のうちあげ高の水位のうち、高潮の警戒レベル4相当基準を超過する際の水位の予測については、量的予想事項を記載する気象要素の種類 (Body/Warning/Item/Kind/Property/Type) を“高潮基準超過”として、その予想時刻を起時 (Time) に記載する。同様に、高潮のピークとなる際の水位の予測については、量的予想事項を記載する気象要素の種類 (Body/Warning/Item/Kind/Property/Type) を“高潮ピーク”として、その予想時刻を起時 (Time) に記載する。
- 5 高潮のうちあげ高の水位に際して、当該細分区の指定した海岸の予報区間(複数ある場合はその全て)以外の海域を示すために“(高潮予報区間以外)”を AreaName に用いる。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 8 SnowfallDepthPart 部

降雪量について諸要素を記載する。

[地域全体について降雪量を記載する場合]

```
<SnowfallDepthPart>
```

```

<Base>
  <jmx_eb:SnowfallDepth type="6時間最大降雪量" unit="cm" description="40センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
  <jmx_eb:SnowfallDepth type="12時間最大降雪量" unit="cm" description="60センチ">60</jmx_eb:SnowfallDepth>
</Base>
</SnowfallDepthPart>

〔地域を分けて降雪量を記載する場合〕
<SnowfallDepthPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>山地</AreaName>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="24時間最大降雪量" unit="cm" description="90センチ">90</jmx_eb:SnowfallDepth>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>平地</AreaName>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="6時間最大降雪量" unit="cm" description="30センチ">30</jmx_eb:SnowfallDepth>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="12時間最大降雪量" unit="cm" description="40センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
    </Local>
  </Base>
</SnowfallDepthPart>

```

- 〔解説〕 1 雪について、全ての予報期間を通じた最大降雪量（Base/SnowfallDepth）を記載する。地域を分けて最大降雪量を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と最大降雪量（SnowfallDepth）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。
- 2 降雪量（SnowfallDepth）には最大降雪量を記載する。属性 type は最大降雪量の種類を表し、“6時間最大降雪量”、“12時間最大降雪量”、“24時間最大降雪量”等を記載する。同一地域で複数の種類の最大降雪量を記載する場合には、SnowfallDepth を、記載する最大降雪量の種類の数だけ繰り返す。属性 unit は“cm”の固定。属性 description に最大降雪量の文字列表現を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 9 HumidityPart 部

湿度について諸要素を記載する。

```

<HumidityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" description="60パーセント">60</jmx_eb:Humidity>
  </Base>
</HumidityPart>
<HumidityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" description="30パーセント">30</jmx_eb:Humidity>
  </Base>
</HumidityPart>

```

- 〔解説〕 1 乾燥について、湿度（Base/Humidity）に実効湿度、最小湿度を記載する。地域を分けて湿度を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と湿度（Humidity）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。また、実効湿度のみ、最小湿度のみの記載となる場合もある。
- 2 湿度（Humidity）の属性 type には“実効湿度”または“最小湿度”を記載する。同一地域で複数の属性 type の値を出現させる場合は、HumidityPart 部を繰り返す。属性 unit は“%”の固定。属性 condition は乾燥危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に湿度の文字列表現を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 10 TidalLevelPart 部

潮位について諸要素を記載する。

地域の数による記述パターンの違いの例

〔地域全体について記載する場合〕

```

<TidalLevelPart>
  <Base>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" description="標高 2.3メートルの高さ">2.3</jmx_eb:TidalLevel>
  </Base>
</TidalLevelPart>

```

〔地域を分けて記載する場合〕

```

<TidalLevelPart>

```

```

<Base>
  <Local>
    <AreaName>東京湾側</AreaName>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" description="標高 1.9メートルの高さ">1.9</jmx_eb:TidalLevel>
  </Local>
  <Local>
    <AreaName>相模湾側</AreaName>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" description="標高 1.5メートルの高さ">1.5</jmx_eb:TidalLevel>
  </Local>
</Base>
</TidalLevelPart>

〔高潮のピーク潮位を記載する場合〕
<Property>
  <Type>高潮ピーク</Type>
  <TidalLevelPart>
    <Base>
      <Local>
        <AreaName>〇〇海岸</AreaName>
        <jmx_eb:TidalLevel type="潮位" unit="m" description="標高 1.9メートルの高さ">1.9</jmx_eb:TidalLevel>
        <Time>2020-06-23T08:00:00+09:00</Time>
      </Local>
      <Local>
        <AreaName>(高潮予報区間以外)</AreaName>
        <jmx_eb:TidalLevel type="潮位" unit="m" description="標高 1.5メートルの高さ">1.5</jmx_eb:TidalLevel>
        <Time>2020-06-23T08:00:00+09:00</Time>
      </Local>
    </Base>
  </TidalLevelPart>
</Property>

```

- 〔解説〕 1 高潮について、潮位（Base/TidalLevel）を記載する。指定した海岸の予報区間又は地域（以下本項で「地域等」という。）を分けて潮位を記載する場合には、Base/Local 以下に、海岸の予報区間名又は地域名（AreaName）と潮位（TidalLevel）を記載する。Local は記載する地域等の数だけ繰り返すが、一部の地域等を記載しない場合がある。
- 2 潮位（TidalLevel）には潮位又は最高潮位を記載する。属性 type は“潮位”又は“最高潮位”、属性 unit は“m”の固定。属性 condition は“値なし”を記載することがある。属性 description に潮位の文字列表現を記載する。
- 3 高潮の警戒レベル4相当基準を超過する際の潮位の予測については、量的予想事項を記載する気象要素の種類（Body/Warning/Item/Kind/Property/Type）を“高潮基準超過”として、その予想時刻を起時（Time）に記載する。同様に、高潮のピークとなる際の潮位の予測については、量的予想事項を記載する気象要素の種類（Body/Warning/Item/Kind/Property/Type）を“高潮ピーク”として、その予想時刻を起時（Time）に記載する。
- 4 潮位に際して、当該細分区の指定した海岸の予報区間（複数ある場合はその全て）以外の地域を示すために“（高潮予報区間以外）”を AreaName に用いる。

3 - 2 - 4 - 1 - 2 Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる市町村等の名称（Name）、コード（Code）を示す。

```

<Area>
  <Name>富山市</Name>
  <Code>1620100</Code>
</Area>

```

- 〔解説〕 1 Area は1回だけ出現する。
- 2 Code に用いるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”
- 3 市町村等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。

3 - 2 - 4 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等”に読み替える。

3 - 2 - 5 Warning[@type="高潮予報区間"]部

指定した海岸の予報区間（高潮予報区間）の高潮警報・注意報の内容を記載する。高潮警報・注意報でない電文の

場合及び指定した海岸の予報区間がない場合は、Warning[@type="高潮予報区間"]部ごと省略する。

3 - 2 - 5 - 1 Item 部

指定した海岸の予報区間（高潮予報区間）における気象警報・注意報について、気象警報・注意報の内容（Kind 部）、内容の変更点の有無（ChangeStatus）を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の高潮予報区間の数だけ出現する。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 Kind 部

高潮について、気象警報・注意報の内容（気象警報・注意報の種別名（Name）、コード（Code）、発表形態（Status）、状況（Condition）、前回の発表状況（LastKind 部）、付加事項（Addition 部）と量的予想事項（Property 部）を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は高潮予報区間で発表中の気象警報・注意報、及び当該電文で解除された気象警報・注意報の数だけ出現する（高潮のみなので常に 1 回）。当該高潮予報区間で発表中及び解除の気象警報・注意報がない場合には、Kind 部は 1 回だけ出現する。

2 全国を対象とした集約通報電文においては、さらに日時（DateTime）を追加し、当該 Kind 部の内容の更新日時（対象要素の警報・注意報の発表日時）を記載する。属性 Type は“発表時刻”の固定とする。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 1 Name、Code、Status、Condition

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 1 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 2 LastKind 部

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 2 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 3 Addition 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等内の市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 Property 部

気象警報・注意報種別ごとに量的予想事項を記載する。気象要素の種類（Type）、気象警報・注意報が対象とする気象現象の危険度（SignificancyPart 部、CriteriaPeriod 部）、予想値等（TidalLevelPart 部等）を記載する。

〔水位基準地点に対して危険度を記載する場合〕

```
<Property>
  <Type>高潮危険度</Type>
  <SignificancyPart>
    <Base>
      <Local>
        <AreaName>江戸湾観測所</AreaName>
        <Significancy type="高潮危険度">
          <Name>警戒レベル 5 相当</Name>
          <Code>51</Code>
        </Significancy>
        <Attention>
          <Note>氾濫発生</Note>
        </Attention>
      </Local>
    </Base>
  </SignificancyPart>
  <CriteriaPeriod>
    <Base>
      <Local>
        <AreaName>江戸湾観測所</AreaName>
        <Sentence>23日7時30分 江戸湾付近では越流が発生しています。</Sentence>
        <CriteriaClass>
          <Name>警戒レベル 5 相当</Name>
          <Code>51</Code>
        </CriteriaClass>
        <Time>2020-06-23T07:30:00+09:00</Time>
      </Local>
    </Base>
  </CriteriaPeriod>
</Property>
```

【解説】 Property 部はKind 以下に1 回以上出現し、出現するProperty/Type の内容及び組み合わせは、気象警報・注意報の種別 (Body/Warning/Item/Kind/Name) に依存する。また、各 Property 部に記載する内容は、気象警報・注意報の種別 (../Name) に依存する。気象警報・注意報の種別に対応するProperty 部の記載内容は別表4 のとおり。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 1 Type

量的予想事項を記載する気象要素の種類を記載する。気象警報・注意報種別と記載する気象要素の種類の対応は別表4 のとおり。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 2 SignificancyPart 部

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 - 2 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

ただし、地域を分けた記載とせず水位基準地点に対して記載を行うものとし、Base/Local 以下に、水位基準地点名 (AreaName) と危険度 (Significancy) を記載する。また、当該危険度に対する現象のピークの発現時間情報 (PeakTime 部)、状況 (Condition)、付加事項 (Addition 部) を記載することがある。Local は記載する水位基準地点の数だけ繰り返すが、一部の水位基準地点を記載しない場合がある。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 3 CriteriaPeriod 部

3 - 3 - 4 - 1 - 1 - 5 - 3 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

ただし、地域を分けた記載とせず水位基準地点に対して記載を行うものとし、Base/Local 以下に、水位基準地点名 (AreaName) と基準到達クラス・レベル (CriteriaClass)、基準到達時刻 (Time)、期間の長さ (Duration) を記載する。Local は記載する水位基準地点の数だけ繰り返すが、一部の水位基準地点を記載しない場合がある。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 4 WaveHeightPart 部

3 - 3 - 4 - 1 - 1 - 5 - 7 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

ただし、指定した海岸の予報区間又は海域を分けた記載とせず水位基準地点に対して記載を行うものとし、Base/Local 以下に、水位基準地点名 (AreaName) と波高 (WaveHeight) を記載する。Local は記載する水位基準地点の数だけ繰り返すが、一部の水位基準地点を記載しない場合がある。

また、気象要素の種類 (Type) が“観測”の場合は、波高 (WaveHeight) には当該地域で観測された最高うちあげ高水位を記載するものとし、波高の属性 type は“最高うちあげ高水位”、属性 unit は“m”の固定、属性 condition は“値なし”を記載することがある。属性 description に波高の文字列表現を記載する。特定の水位観測所又は水位基準地点でのうちあげ高水位を記載する場合は、Base/Local 以下に、水位観測所又は水位基準地点名 (AreaName) と最高うちあげ高水位 (WaveHeight) を記載する。観測された日時を記載する場合は、Base 以下又は Base/Local 以下に起時 (Time) を記載する。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 5 TidalLevelPart 部

3 - 3 - 4 - 1 - 1 - 5 - 10 の内容のうち、“市町村等”を“高潮予報区間”に読み替える。

ただし、指定した海岸の予報区間又は地域を分けた記載とせず指定した海岸の予報区間全域に対して記載を行うものとする。

また、気象要素の種類 (Type) が“観測”の場合は、潮位 (TidalLevel) には当該地域で観測された最高潮位を記載するものとし、潮位の属性 type は“最高潮位”、属性 unit は“m”の固定、属性 condition は“値なし”を記載することがある。属性 description に潮位の文字列表現を記載する。特定の潮位観測所又は水位基準地点での潮位を記載する場合は、Base/Local 以下に、潮位観測所又は水位基準地点名 (AreaName) と最高潮位 (TidalLevel) を記載する。観測された日時を記載する場合は、Base 以下又は Base/Local 以下に起時 (Time) を記載する。

3 - 2 - 5 - 1 - 1 - 4 - 6 EventPart 部

気象警報・注意報に際して、発生した事象に関する諸要素を記載する。高潮の場合、警戒レベル5 相当の発表又は発表中に発生した事象について記載する。

〔地域を示して記載する場合〕

```
<EventPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>港区竹芝栈橋</AreaName>
      <Sentence>港区竹芝栈橋付近で越流が発生しています。</Sentence>
      <Location>港区竹芝栈橋地先</Location>
      <Event type="高潮">
        <EventName>越流</EventName>
```



```

<Time>2020-06-23T07:15:00+09:00</Time>
</Event>
</Local>
</Base>
</EventPart>

```

- [解説] 1 高潮について、発生又は発生した事象 (Base/Event) を記載する。属性 type は“高潮”固定。地域を示して事象を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と地域の場所 (Location)、事象 (Event) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返す。
- 2 地域名は任意の地域名。
- 3 事象には、事象の名称 (EventName) と事象の発生時刻 (Time) を記載する。事象の発生時刻は省略されることがある。
- 4 事象について、文章形式 (Sentence) に文字列表現を記載する。

3 - 2 - 5 - 1 - 2 Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる高潮予報区間の名称 (Name)、コード (Code) を示す。

```

<Area codeType="高潮予報区間">
  <Name>江戸湾</Name>
  <Code>131234</Code>
  <SubCityList>中央区 港区 江東区</SubCityList>
  <Location>東京湾 (東京都) </Location>
</Area>

```

- [解説] 1 Area は 1 回だけ出現する。
- 2 Area の属性 codeType に記載されるコード種別名は“高潮予報区間”固定。
- 3 高潮予報区間の名称と対応するコードは code.CoastForecast (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。
- 4 海岸の予報区間に含まれる二次細分区名を市町村を細分する領域 (SubCityList) に、空白区切り配列 (list 型) で記載する。
- 5 高潮予報区間が属する高潮予報海岸名を存在域 (Location) に記載する。

3 - 2 - 5 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“高潮予報区間”に読み替える。

3 - 3 AdditionalInfo 部

高潮警報・注意報において、指定した海岸の予報区間 (高潮予報区間) に対する諸要素を示す。

```

<AdditionalInfo>
  <TidalWarningAddition>
    <TidalAreaPart>
      (略)
    </TidalAreaPart>
    <HydrometricStaionPart>
      (略)
    </HydrometricStaionPart>
  </TidalWarningAddition>
</AdditionalInfo>

```

- [解説] 1 指定した海岸の予報区間がない場合は、AdditionalInfo 部ごと省略する。
- 2 全国を対象とした集約通報電文においては、AdditionalInfo 部ごと省略する。

3 - 3 - 1 TidalWarningAddition 部

指定した海岸の予報区間に対して、予報区間に係る諸要素と当該予報区間に属する水位基準地点の諸要素を示す。

[解説] 1 高潮警報の付加事項 (TidalWarningAddition) は、予報区間の数だけ繰り返し出現する。

3 - 3 - 1 - 1 TidalAreaPart 部

指定した海岸の予報区間の諸要素を示す。Warning[@type="気象警報・注意報 (市町村等)"] 部で、指定した海岸の予報区間を記載した際の同名の予報区間又は Warning[@type="海岸予報区域"] 部の対象とする同名の予報区間の諸要素を示す。

```

<TidalAreaPart>
  <Area codeType="高潮予報区間">

```

```

<Name>江戸湾</Name>
<Code>131234</Code>
<SubCityList>中央区 港区 江東区</SubCityList>
<SubCityCodeList>1310200 1310300 1310800</SubCityCodeList>
<Location>東京湾（東京都）</Location>
</Area>
<ChargeSection>東京都港区竹芝から江東区豊洲まで</ChargeSection>
</TidalAreaPart>

```

- [解説] 1 Area は 1 回だけ出現する。Area の属性 codeType に記載されるコード種別名は“高潮予報区間”固定。
- 2 Name は海岸の予報区間名を記載する。Warning[@type=“気象警報・注意報（市町村等）”]部の危険度並びにうちあげ高水位及び潮位の量予想で用いる指定した海岸の予報区間の名称、又はWarning[@type=“高潮予報区間”]部の対象とする指定した海岸の予報区間の名称と一致する。
- 3 高潮予報区間の名称と対応するコードは code.CoastForecast（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。
- 4 高潮予報区間に含まれる二次細分区名を市町村を細分する領域（SubCityList）に、同二次細分区コードを市町村を細分する領域のコード（SubCityCodeList）にそれぞれ空白区切り配列（list 型）で記載する。
- 5 高潮予報区間が属する高潮予報海岸名を存在域（Location）に記載する。
- 6 高潮予報区間名で示される予報区間について、受け持ち区間（ChargeSection）に記載する。複数の受け持ち区間で構成される場合は、当該要素を繰り返す。

3 - 3 - 1 - 2 HydrometricStationPart 部

指定した海岸の予報区間に属する水位基準地点の諸要素を示す。当該予報区間に属する水位基準地点が複数ある場合は、その数分繰り返す。Warning[@type=“高潮予報区間”]部で、水位基準地点に対して記載した際の同名の水位基準地点の諸要素を示す。

```

<HydrometricStationPart>
  <Area codeType=“水位基準地点”>
    <Name>江戸湾観測所</Name>
    <Code>13245</Code>
    <Location>港区竹芝地先</Location>
  </Area>
  <ChargeSection>東京都港区竹芝</ChargeSection>
  <Criteria>
    <jmx_eb:WaterLevel type=“堤防天端高” unit=“m” description=“堤防天端高 2. 0メートル” condition=“有効”>2.0</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type=“設計高潮位” unit=“m” description=“設計高潮位 1. 8メートル” condition=“有効”>1.8</jmx_eb:WaterLevel>
  </Criteria>
</HydrometricStationPart>

```

- [解説] 1 Area は 1 回だけ出現する。Area の属性 codeType に記載されるコード種別名は“水位基準地点”固定。
- 2 Name は水位基準地点の名称を記載する。Warning[@type=“高潮予報区間”]部の危険度並びにうちあげ高水位及び潮位の量予想で用いる水位基準地点の名称と一致する。
- 3 水位基準地点の名称と対応するコードは code.HydrometricStation（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。
- 4 Location には、水位基準地点の住所を文章形式で記載する。
- 5 高潮予報区間の受け持ち区間とは別に、水位基準地点における受け持ち区間が別に指定される場合は受け持ち区間（ChargeSection）に記載する。複数の受け持ち区間で構成される場合は、当該要素を繰り返す。水位基準地点での待ち受け区間がない場合は、要素ごと省略する。
- 6 水位基準地点において基準となる水位を水位（Criteria/WaterLevel）に記載する。水位（WaterLevel）の属性 type には“堤防天端高”、“設計高潮位”等を記載する。属性 unit は“m”の固定。値がない場合、属性 condition に“値なし”を記載することがある。属性 description に基準となる水位の文字列表現を記載する。

3 - 3 Comment 部

当該気象警報・注意報に関する付加的文章を記載する。

```

<Comment>
  <Text type=“レベル 4 土砂災害危険警報の補足情報”>避難が必要となる危険な状況となっています。崖の近くや谷の出口など土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、市町村から発令される避難指示などの情報に留意し、少しでも安全な場所への速やかな避難を心がけてください。</Text>
</Comment>

```

- [解説] 1 土砂災害警報・注意報において、防災活動に係る付加的文章を記載する。土砂災害警報・注意報以外又は記載する内容がない場合は、要素ごと省略する。
- 2 Text に文章を記載する。文章の分類として「補足情報」を示すものとし、属性 Type は“レベル5土砂災害特別警報の補足情報”、“レベル4土砂災害危険警報の補足情報”、“レベル3土砂災害警報の補足情報”、“レベル2土砂災害注意報の補足情報”のいずれかとする。属性 type を別にしてText が複数ある場合もある。**【P】**

3 - 4 OfficeInfo 部

当該気象警報・注意報に関する担当部署を記載する。

```
<OfficeInfo>
  <Office type="補足情報担当">
    <Name>宗谷総合振興局</Name>
  </Office>
  <Office type="気象関係">
    <Name>稚内地方気象台</Name>
  </Office>
</OfficeInfo>
```

- [解説] 1 共同発表や土砂災害警戒情報等に係る担当部署を記載する。土砂災害及び高潮警報・注意報以外、又は記載する内容がない場合は、要素ごと省略する。
- 2 要素 Office を 2 個子要素として持ち、それぞれ関係機関及び気象官署の問い合わせ先の情報を記載する。属性 Type は担当業務又は部署を記載する。
- 3 要素 Office には、要素 Name を子要素として持つ。要素 Name には機関・部署の名称を記載する。

気象警報・注意報（H 2 7）との関係

気象警報・注意報（R 0 6）の運用開始により、従前の情報形式である気象警報・注意報（H 2 7）は、経過措置電文としての運用となる。各要素値やコード値等の運用については、別表 7 のとおりとする。